

第6回 海の森づくりシンポジウム

# 海洋施肥と海の森づくり

2009年5月29日（金）13：00-17：30

於東京海洋大学楽水会館鈴木善幸ホール

## プレスリリース

私たち日本人は、太古の昔から海の恩恵を受けつつ豊かな営みを続けてきました。かつて水産王国を自負した日本は、南北3千キロメートルという固有の国土の広がりを持ち、四方を海に囲まれ、3万5千キロメートルという地球円周の85%に相当する海岸線を持ち、暖流と寒流がぶつかる世界3大漁場の一つを含み国土面積の十数倍に相当する447万平方キロメートルという排他的経済水域を有する正に世界有数の海洋国です。21世紀は「海の時代」といわれますが、賢い海の利用に対する期待は世界的に高まり、国民生活の安全保障に貢献する多面的機能をもつ水産分野では、日本のリーダーシップが問われています。

しかし、過去の利益追求本位の利用の結果、海は病み、沿岸資源は枯渇し、6,000余の漁村では過疎化と高齢化が進み、日本の水産は今や正に起死回生を迫られています。このような状態から脱皮するために、私達は、確立した養殖技術を駆使し、全国津々浦々に点在する漁業協同組合と連携して大型海藻を毎年栽培したり、施肥技術をも導入して、藻場の改善を進めようとしています。この私どもの「海の森づくり方式」は富栄養化した沿岸域の栄養塩とCO<sub>2</sub>を吸収し、酸素を出し、海水を浄化するのみならず、海域固有の生態系を生かし、不特定多数の魚介類の産卵場や揺籃場をつくり、生物多様性を育む栽培漁業革命技術です。既存の藻場造成事業や栽培漁業を補完し、その効果を倍増します。この運動は1994年に鹿児島で始まり、今では熊本県、長崎県、愛媛県、富山県、千葉県等へと広がりを見せております。

また、「海の森づくり」は生産活動だけでは完結しません。CO<sub>2</sub>の吸収・固定化やバイオエネルギー源としても注目されている生産物を収穫して、持続的に収益確保の道を切り開き、その収益でさらに「海の森づくり」運動を継続することや21世紀型循環型社会創生の第一歩として都市と農漁村とのコミュニケーションチャンネルを拓き、環境と食育に関心を共有する都会の人々と農漁村の人たちが、環境改善、農漁業振興、健康増進を手を携えつつ叡智を絞って進めることこそが今、重要なのです。

私達は、このような観点から、以下の 3 つのスローガンのもとに、総合的に「海の森づくり運動」を展開しております。

1. 山・川・海の健康を取り戻そう！
2. 海の森づくり運動を全国に広めよう！
3. “海藻・海草”は地球と人を救うお医者さん！

最近、地球温暖化や「磯やけ」の顕著化とも関連して、「海の森づくり」の中に新しい動きが注目されます。それは海洋施肥剤を使って藻場造成を促進しようという動きです。そこで、今回は、当協会と新日本製鐵株式会社が取り組んできた経験を披露し、この問題を深く掘り下げます。海中の生物生産のための成長制限要因としては窒素・リン・ケイ素・鉄の 4 元素がありますが、これらは鉄分を主体としたものです。効果は施肥箇所によって多様です。前浜の状況は、ケース・バイ・ケースで違い、これに対応した適切な取り組みが必要で、事業主体としての漁業協同組合の役割は非常に大きいのです。さらに、最近では、ノリの色落ちと内湾域の栄養塩動態のような溶存無機窒素やリンの貧栄養が指摘されております。従って、豊かな海を取り戻すためには、施肥技術を駆使する必要があります。施肥剤の適正な活用が水産資源基盤の拡充方策の一助として広く認知されればと期待しております。

当シンポジウムでは、日本大学の堀田健治教授の基調講演「海洋施肥と海の森づくり—施肥剤使用による課題と方策—」を皮切りに、3 つの事例報告が為されました。一つは鉄鋼スラグ業界を代表する新日本製鐵株式会社の中川雅夫氏からの新日鐵の経験です。もう一つは、堀田教授が開発した海洋施肥剤を企業化した韓国の東成海洋開発株式会社の金榮燾氏の韓国での経験と金氏から提供された海洋施肥剤を使用した当 NPO「海の森づくり推進協会」との共同試験参加 3 漁協（長崎県壱岐東部漁協、愛媛県遊子漁協、鹿児島県東町漁協）の経験です。最後は、世界中の海で 35,000 時間以上の潜水実績を有する（株）オーシャングリーン社の澁谷正信氏が海洋施肥の重要性を認識し、これまでの潜水記録を総括した「施肥の海—7 年間の記録」です。このような企画は、日本では初めてですし、今後「海の時代」を考える上で、非常に大きな意味をもっていると考えます。最後の総合討論では、海洋施肥剤の可能性と限界に就いて存分に話し合いました。

総勢 92 名が集った今回のシンポジウムを切っ掛けに、早急にアセスメントを含めた海洋施肥剤の使用に関するマニュアル化が必要であると考えます。このような作業に対しては、「海の時代」をリードすべき水産庁や全国漁業協同組合連合会の積極的な行動が期待されています。

## 第 6 回 海の森づくりシンポジウム：海洋施肥と海の森づくり

参加者代表 松田 恵明

2009 年 5 月 29 日